



ブロッコリー栽培の労働時間は、収穫出荷に係る作業時間の占める割合が最も高いことから、手収穫を収穫機利用に変えることで作業の効率化が期待されます。そこで、ブロッコリー収穫機を活用した収穫方法について検討しました。ブロッコリーは収穫適期の個体間のばらつきが生じるため、手収穫100%区、機械収穫100%区、機械収穫を行う前に生育が早い株を手収穫する試験区2区の計4区を設け、収穫機の作業速度や作業時間について調査を行いました。その結果、収穫機の作業速度は機械収穫の収穫割合が少ないほど速くなりまし

100%を基準とすると機械収穫100%区が41・3%、手収穫50%後機械収穫区が86・5%となり作業時間の削減が可能となりました。ただし、前述のようにブロッコリー

## ブロッコリー収穫機の効率的活用 手収穫の割合が重要 生育のばらつき課題

1は生育のばらつきが大きいく、機械による100%一斉収穫では、商品収量が低下する恐れがあることから、今後、生育のそろうに關する技術や品種の選定などを考慮し

ながら、収穫機の効率的な利用方法を検討していきます。(長崎県農林技術開発センター畑作営農研究部門干拓営農研究室主任研究員 尾崎祐未)

試験区	収穫機の作業速度(m/s)	作業時間(時間/10a)			作業時間割合(%)
		手収穫	機械収穫	合計	
機械収穫100%	0.11	—	5.2	5.2	41.3
手収穫50%+機械収穫	0.12	6.3	4.6	10.9	86.5
手収穫80%+機械収穫	0.22	10.1	4.8	14.9	118.3
手収穫100%	—	12.6	—	12.6	100.0

注1) 作業時間(時間/10a)は3人1組で作業を行った時の時間とする  
注2) 作業時間割合(%)は手収穫100%区を基準とした数値とする